



株主・投資家のみなさまへ

株式会社共和コーポレーション 2019年3月期のご報告
2018年4月1日から2019年3月31日まで

株主・投資家のみなさまへ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、第33期(2018年4月1日～2019年3月31日)が終了いたしましたので、事業の概要及び決算のご報告を申し上げます。



2019年3月期を振り返って

経営基盤強化に向けて2019年3月期も継続的に新規出店を実施しており、2019年3月末現在の店舗数は53店舗となりました。

その後も順調に出店を続けていることに加え、既存店売上高も好調に伸長、アミューズメント機器販売事業においても過去最高の売上高を上げるなど、業績予想119億円を上回る121億円を達成いたしました。

なお、2019年1月1日付で100%子会社2社を吸収合併いたしました。今後さらに、経営効率の向上および経営資源の有効活用を進め、引き続き事業の拡大、収益性の向上に取り組んでまいります。私たちは、より多くの方に質の高いエンターテイメントをお届けするために、これからも“楽しさ”の創造に真摯な企業であり続けます。

経営課題と今後の見通し

当社の第34期(2019年4月1日～2020年3月31日)は、過去最高の売上高150億円という目標を達成するため、新規出店およびM&Aによる店舗網の拡大をすすめるとともに、新規エリアにおいては、より多くのお客様に当社を認知していただくことが重要だと考えています。

また、店舗の増加によって接客や営業フロアの状況などを疎かにすることなく店舗運営を続けるために、人材教育体制の強化および店舗チェックをおこない、より一層お客様にご支持いただける店舗づくりに努めてまいります。

当社の継続的な発展によって株主の皆様のご期待に応えるためにも、顧客満足度の向上による集客力の強化を通じて事業規模の拡大を図り、利益率の向上に取り組んでまいります。

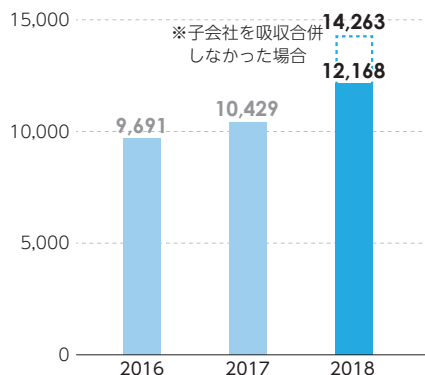
代表取締役社長 宮本和彦

決算ハイライト

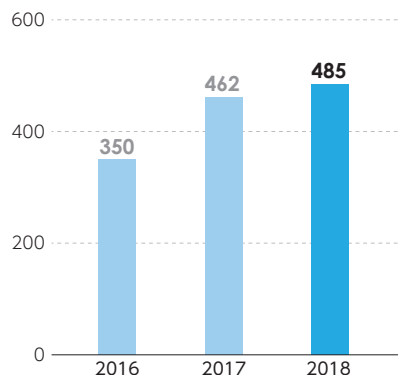
2019年3月期のポイント

- 1 既存店が順調に推移し、計画以上に新規出店した結果、**売上高**は**当期計画**を上回る**12,168百万円**となりました。
- 2 2019年1月1日付で子会社2社を**吸収合併**し、第3四半期までは**連結決算**、**通期**は**非連結決算**になりました。
- 3 子会社2社を吸収合併したことに伴い、受け入れた純資産と当社が保有していた子会社株式の帳簿価額の差額を「**抱合せ株式消滅差益**」として、当社決算において**568百万円**を**特別利益**に計上しました。これは2019年3月期限りの特殊要因です。
- 4 収益性の低下が見られる店舗について**159百万円**の**減損処理**をしました。

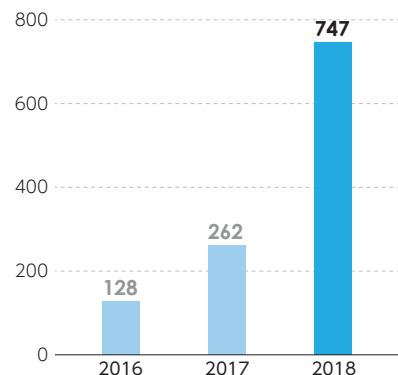
売上高 (百万円)



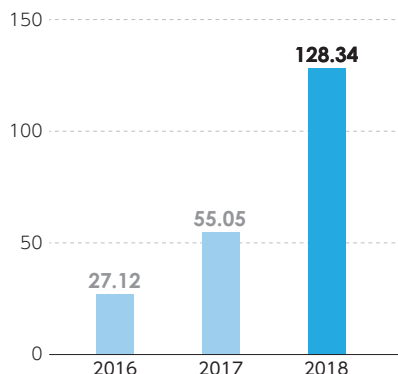
経常利益 (百万円)



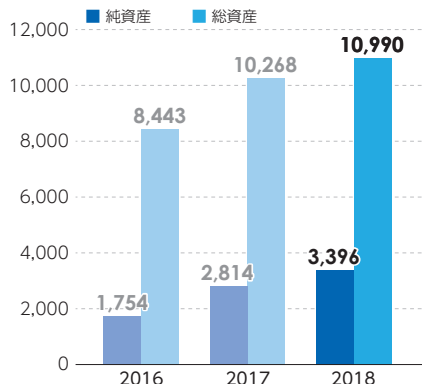
当期純利益 (百万円)



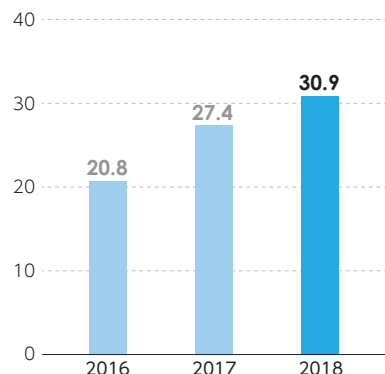
1株当たり当期利益額 (円)



純資産・総資産 (百万円)



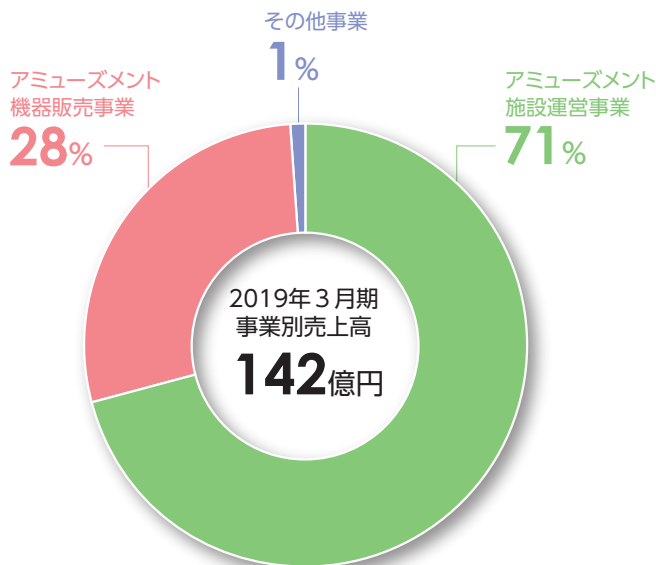
自己資本比率 (%)



当社は2017年10月17日付で普通株式1株につき普通株式50株の割合で、2018年9月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っておりますが、2016年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益額及び1株当たり純資産額を算定しております。

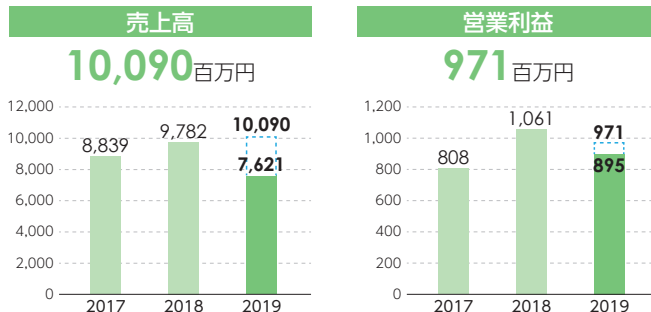
事業別の概況

2019年3月期の事業別売上高



※2019年3月期に子会社を吸収合併しなかった場合の売上高構成比です。

アミューズメント施設運営事業



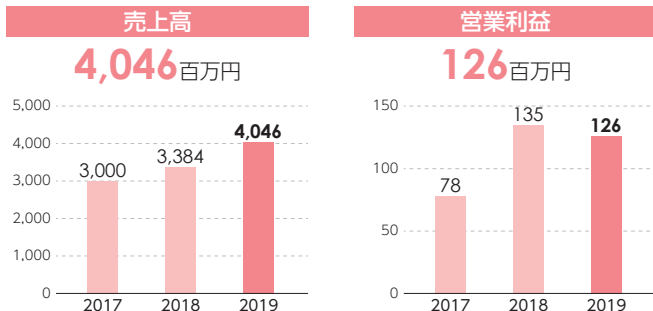
点線で示したグラフは子会社との合併をしなかった場合との比較について示しています。

売上高につきましては、前期比3.1%増の、100億9千万円となり、当社では初めて100億円を超えました。なお、既存店の売上高前年比は100.9%となりました。

営業利益につきましては、前期比8.4%減の9億7千万円となりました。

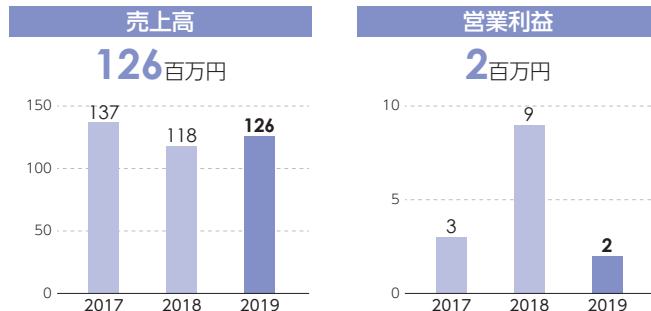
なお、2018年6月に「ゲームスクエア三芳」、2018年10月に「キッズスクエア上尾」、2018年11月に「アピナ大宮店」、「アピナ姫路店」、「アピナ山下公園店」、2019年3月に「キッズスクエア東大島」を開設しており、総店舗数は53店舗となっています。

アミューズメント機器販売事業



引き続き得意先への継続的な販売を行うとともに、新規取引先の獲得を積極的に進めてまいりました。また、新規アミューズメント機器の販売に加え、中古アミューズメント機器やアミューズメント景品の販売にも注力して販売力の強化を推進したこと等により、当初計画に対して新製品及び中古機器の販売増加が見られました。

その他事業



TVコマーシャルや新聞・雑誌等の広告媒体の取り扱いやチラシ等の印刷物制作、販促企画立案を行う広告代理店業、店舗デザインや看板製作、販促品ノベルティの通信販売サイトの運営まで幅広く行っています。

既存顧客といたしましては、個人事業主様から民間企業全般、金融機関、官公庁等まで、様々な業種業態の企業と継続的な取引があります。

このほか、看護学生向けの就職ガイダンスの企画運営、新たにeスポーツへの取り組みを開始しています。

※上記の売上高には、合併前の子会社に対するアミューズメント機器の受取賃貸料等373百万円を除いています。なお、営業利益には影響ありません。

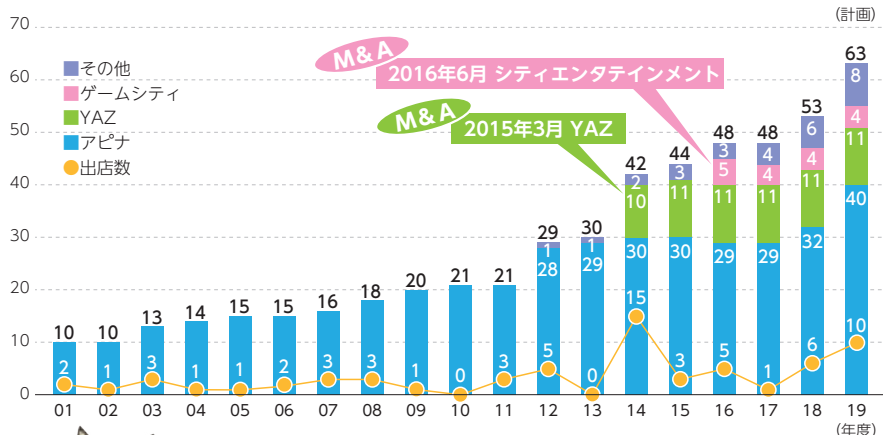
出店戦略および出店状況

ブランド別店舗数・年度出店数

2018年度は、新規の出店に加え、M&Aやその後の店舗再生による出店戦略を加速しました。

当社は、事業の成長のための時間を短縮するため、M&Aを有効な手段ととらえております。当社と親近性のある事業を含め、当社が取得することにより発展が期待できる事業に、引き続き注目してまいります。

出店形態におきましては、これまでのロードサイド店だけでなく、ショッピングセンターをはじめとした複合施設内や駅前、繁華街ロケーションへの出店を進めており、バランスの取れた店舗網を構築することが重要と考えております。



※14年度は決算期変更のため18ヶ月決算。
※19年度は計画となります。

新規開業店舗 (2019年3月期から現在)



出店状況 (2019年5月末現在)

直営店 **59** 店舗を展開中

信越

アビナ長岡店
アビナ上越インター店
アビナスカイバットセンター
アビナ長野村山店
アビナ長野大橋店
アビナ長野川中島店
アビナ長野駅前店
アビナボウル長野篠ノ井店
アビナ上田店
アビナ佐久インター店
白樺リゾート池の平ホテルアミューズメント館
アビナ穂高店
アビナボウル安曇野店
アビナ松本店
アビナボウル松本城山店
タイトーFステーション松本店
アビナ塩尻店
アビナ伊那店
アビナ飯田店

山形
1 店舗

信越
19 店舗

北陸
5 店舗

近畿
2 店舗

東海
6 店舗

東海	シートピア YAZ 焼津店
	シートピア YAZ 大須賀店
	YAZ 磐田店
	YAZ ワールド浜松葵店
	YAZ ワールド四日市店
	アビナ鈴鹿店

近畿	アビナ寝屋川店
	アビナ姫路店

北海道	アビナ新千歳空港店
山形	アビナ鶴岡店
	アビナ富山新庄店
北陸	アビナ富山豊田店
	アビナ富山南店
	アビナ野々市店
	アビナ野々市バットセンター

関東
25 店舗

関東	アビナ太田店
	アビナ小山店
	アビナ下館店
	アビナ上尾店
	キッズスクエア上尾
	アビナ大宮店
	ゲームスクエア三芳
	ゲームシティプラス川越店
	ゲームシティ川口店
	アビナ幸手店
	アビナ草加店
	YAZ ワールド野田七光店
	ゲームスクエア茂原
	キッズスクエア松戸
	ゲームシティ板橋店
	ゲームシティ国分寺南店
	YAZ ワールド八王子みなみ野店
	アビナ S 武蔵小山店
	アビナ荻窪店
	キッズスクエア東大島
	アビナ橋本店
	アビナ川崎店
	アビナ山下公園店
	アミューズメントランド YAZ 平塚店
	キッズスクエア上溝店

北海道 (千歳)
1 店舗



TOPICS

営業力の強化

当社のゲームセンターは、景品ゲームのもう1プレイを促進するための施策や接客、メダルゲームの新規ユーザーの獲得策など、常に様々なイベントや企画を考案・実施しております。

中でも、各メーカー様とコラボレーションしたオリジナルの景品や特典の制作に力を入れており、お客様からもご好評をいただいております。

またボウリングでは、毎月各店で開催しているプロボウラーとの対戦「プロチャレンジマッチ」のほか、シニア層を対象にした「健康ボウリング」教室などにも力を入れており、常に活気のある店舗運営に注力しております。



アビちゃん
ぬいぐるみは
人気がある
ニャンよ!

プロチャレンジマッチ
の様子



アビちゃん×グリコ製品の
オリジナル製品



接客力の強化

当社では、「明るい、安心、三世代」をテーマにお楽しみいただける事業を目指しております。その実現のために必要不可欠と考える「高品質な接客サービス」をご提供するため、定期的に外部の専門企業による覆面調査や、接客力向上のための研修を積極的に取り入れ、顧客満足度の向上に力を入れております。様々な観点から接客力を評価し、優秀な店舗には半年に一度表彰を実施するなど、全店の顧客満足度向上のための施策を継続して行っております。



eスポーツへの取組み

昨今よく耳にするようになった「eスポーツ」。当社でも昨年11月に開催したeスポーツの大会「APINA CUP」を皮切りに、様々なeスポーツの取組みに積極的に参加し、運営支援や協力及び会場や設備の提供を行っております。

また2019年3月には、一般社団法人eスポーツ連合 (JeSU) に正式加盟し、長野県内のみならず、全国のeスポーツの発展に寄与してまいります。



2018年11月に開催されたAPINA CUP
の様子 (アビナ松本店)



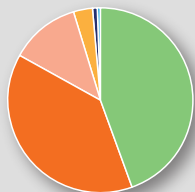
会社情報 / 株式情報

株式の状況 (2019年3月31日現在)

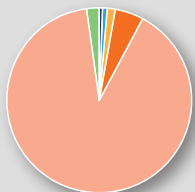
発行可能株式総数	16,000,000株
発行済株式総数	5,827,000株
	(自己株式200,000株を除く。)
株主総数	3,705名
大株主の状況	

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
株式会社ユーミーコーポレーション	2,260,000	38.7
宮本早苗	800,000	13.7
宮本和彦	510,000	8.7
共和コーポレーション従業員持株会	266,000	4.5
日本マスタートラスト信託銀行	214,700	3.6
日本トラスティ・サービス信託銀行	181,900	3.1
株式会社北陸銀行	100,000	1.7
株式会社八十二銀行	100,000	1.7
長野信用金庫	100,000	1.7
武田智徳	61,400	1.0

所有者別株式分布状況



所有株式数別株式分布状況



会社情報 (2019年3月31日現在)

商号	株式会社共和コーポレーション
創業	1982年1月1日
設立	1986年5月16日
資本金	6億9,388万円
従業員数	177名(364名)
	*従業員数の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

役員 (2019年3月31日現在)

代表取締役社長	宮本 和彦
専務取締役	宮本 早苗
常務取締役	杉浦 進
取締役	澤田 亮
取締役	岡崎 盛裕
取締役	野口 幹夫
取締役(常勤監査等委員)	内藤 博正
取締役(監査等委員)	中澤 敏和
取締役(監査等委員)	岡本 俊也

株主メモ

上場市場	東京証券取引所市場第二部
証券コード	6570
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主確定基準日	毎年3月31日
剰余金の配当の基準日	毎年9月30日および3月31日
株式の売買単位	100株

広告掲載方法 当会社の広告は、電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
 広告掲載URL
<http://www.kyowa-corp.co.jp>

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
 東京都付中市日鋼町1-1
 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
 郵送先 〒137-8081
 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株式会社 共和コーポレーション

〒380-0928 長野県長野市若里三丁目10番28号
 TEL : 026-227-1301 (代表)

